

行動薬理学への招待 - 心理学と薬理学の接点 -

講師: 廣中 直行 先生

科学技術振興機構(JST)

戦略的創造研究推進事業 下條潜在脳機能プロジェクト

日程: 11月15日(火) 午後2時40分-午後4時10分

場所: M-23教室

廣中先生の紹介

私は心理学が培ってきた実験技術や理論が「心」に作用する薬物の研究にどのように役立つかを考え、実際に新薬の非臨床試験(動物実験)の現場で働きながら実践してきました。その後、理化学研究所で、心理学の実験技法や考え方を遺伝子改変マウスの脳機能研究に生かすことを目標に仕事をしてきました。学習と記憶、恐怖と不安、嗜癖などが主な研究領域です。

講演の内容

心理学と薬理学がどうして結びつくのか、まず1950年代に始まった心理学と薬理学の協力関係についてご説明します。その歴史から「心の病気が薬で治るか」といった大きな問題に対するヒントが得られると思います。その後、「心」を科学的にとらえることの難しさ面白さについて自分の経験をまじえてご紹介し、このような学際的な領域が今後どういう発展の可能性を秘めているかをお話したいと思います。